

第1回 旭市総合戦略懇談会 会議内容

日時：平成27年5月27日（水）14：00～16：00

場所：旭市役所

○ 出席者

《委員》 16名出席 1名欠席

飯島 隆太 委員	出	石上 弥耶 委員	出	石毛 みさと 委員	出
石見 千賀子 委員	出	伊知地 正樹 委員	出	大越 俊克 委員	出
向後 嗣一 委員	出	小関 友紀子 委員	出	椎名 正剛 委員	欠
嶋田 明範 委員	出	城之内 和義 委員	出	田邊 波津枝 委員	出
林 一美 委員	出	林 英光 委員	出	原 伸太郎 委員	出
土川 峰弘 委員	出	諸持 耕太郎 委員	出		

《旭市》

旭市副市長、秘書広報課長、総務課副課長、企画政策課長等（事務局） 計9名

○ 資料

- ・ 次第
- ・ 資料 1 旭市総合戦略懇談会設置要綱
- ・ 資料 2 旭市総合戦略懇談会委員名簿
- ・ 資料 3 まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」「総合戦略」パンフレット
- ・ 資料 4 旭市総合戦略の推進体制について
- ・ 資料 5 旭市総合戦略人口ビジョン(案)
- ・ 資料 6 計画策定スケジュール

○ 会議内容

1. 開会

事務局より、旭市総合戦略懇談会設置要綱の説明。

2. 委嘱書の交付

市長より、各委員に委嘱書の交付。

3. 市長あいさつ（要旨）

総合戦略懇談会は、国が3本の矢の経済改革や地方創生を実現するために総合戦略を策定し、地方へ早く経済波及効果を浸透させるという狙いがあります。この総合戦略は国の政策として進めていく中で、現在、全国約1,800の自治体が総合戦略を策定する予定です。このような中で、旭市の5年、10年、15年、20年先のまちづくりの基本姿勢をみなさんと議論していただくために、本日は第1回懇談会を開催させていただきました。

本日委嘱をさせていただきました委員の皆様は、各分野を代表する方々にお集まりいただきました。委員の皆さんには、総合戦略の方向性や施策について、これまでのいろいろなキャリアを活かしながら、ご検討頂くことになるわけであります。

人口減少時代、そしてまたいろいろな地方の不況感、こういったものを克服するためには、この地方創生にかかっていくわけであります。この地方創生の中で、懇談会で議論されることは、これからの旭市の最上位計画、総合計画につながるという考えで、皆様方の議論をよろしくお願いいたします。

今年は記念すべき合併10周年であります。そんな記念すべき年に新たなまちづくりの計画を策定するということは意義のある、意味深いことになると思っています。委員の皆様は、発言力のある方々です。今までは断然、組織の中の長である方がでいただく機会が多かったのですが、今回は組織の長ということではなく、この旭を思ってくれる、これからの旭をどういうまちの形にしていくのかという思いをぜひこの戦略会議の中で語っていただきたいと思います。

今、旭市でも問題になっている「人口減少問題」に歯止めをかけたいという強い思いがあります。国全体でそういったことを考えて大きな政策にしているわけでありますけれど、旭市でも、この人口減少問題の中で一番大事な問題である「子育て支援」の部分でいろいろな政策を行っています。一つには第3子以降の保育園・幼稚園の無料化、紙おむつ購入券の配布、中学3年生までの医療費無料制度、その他にも少子化対策、いろいろな政策を行っています。その他にも雇用の促進、雇用の充実を図っていかねばならないという思いでいるため、企業誘致や企業の支援策もやっていかなければなりません。

そして、旭の宝である旭中央病院は、従業員2,000人が働いています。まずは、これをしっかりと安定的で継続的な雇用・経済にしていかなければなりません。

今年は「道の駅季楽里あさひ」を10月17日にオープン予定です。この「道の駅季楽里あさひ」を観光拠点、交流拠点にしながら、「旭市」を発信していきたいという思いであります。このようなことも総合戦略の中でひとつ新たな施策として含めて進展を図りながら、皆様方に応援を頂きたいと考えております。

この懇談会は、今年度中6、7回の会議を予定しております。今後、10年間で議論するというのには、非常に短い期間であろうかと思いますが、皆様のいろいろな面での活躍を基本にして、会議が素晴らしいものになることを期待しています。皆様方の意見を集約しながら、基本計画と同等の最上位計画を策

定していきますので、皆様方のアイデアをよろしくお願いします。

○各委員自己紹介

4. 座長選出

座長に林英光氏、職務代理に諸持耕太郎氏が選出。

【林座長挨拶】

私は環境デザインをやっており、国交省の景観アドバイザーなどをしております。

日本の幸福度は信じられないくらい低く、さまざまな意味で具体的にみるとたくさん問題があります。戦後、経済的にはよくなり、20世紀は経済、お金、モノ、スピードでしたが、21世紀は心の時代、一番抜けていた文化が重要です。

様々な問題を克服していかなければなりません。旭市は周囲から比べると少しゆったりしているように見えます。旭市が千葉県や全国の新しい模範になるようなビジョンを進めるためには、縦割とか、自分の範囲だけではなく、関係者が協力しながら一体になって進めていく必要があります。

自分の範囲をしっかりと守りながら、周囲とコラボレーションすれば、旭はどんどん良くなります。お互いが連携し、関係付け、混在しながら進めていけば必ず素晴らしい方針が出ると思います。今日は自由にお話いただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

【諸持職務代理】

今、林座長からのお話伺って同感いたしました。いろいろな方々がお集まりですので、みんなで意見を出し合って、質の高い提案を出していきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

5. 説明

(1) 地方創生について

資料3、4に基づき事務局が説明

(2) 旭市総合戦略及び人口ビジョンについて

資料5に基づき事務局が説明

6. 質疑応答、意見交換

○委員

今日は大まかな方向を話し合うのですか。それとも、例えば産業界はこんなことを、行政はこんなことをする、というような細かい議論が必要ですか。

●事務局

今日は初会合ということですが、先ほど説明した中で国が示した全体像があり、つまり人口減少を食い止めるということが大きな目的です。それに対する施策や事業を検討する上で、いろいろな方々が集まってくださっているので、いろいろな意見で取り入れていきたいと考えています。

国が示した雇用の創出、人の流れ・移住、子育て関係を含めて、議論は自由に狭めないような形で進めていきたいと考えています。

●座長

初めに少しいいですか。旭はさまざまな良さがありますが、いいものがありながら活用されていないように感じています。あるいは豊かだから緊迫感がなく、自由に過ごしているように思いますが、実はこういうケースだからこそ旭はやるべきだと思います。

私たちは、よその国へ行くと、そのまちの古代感や歴史を見まして、こんな人が生まれた、こんな有名な人がでた、こんなことがあったのかがわかりやすくなっており、韓国とかヨーロッパなんかではそうなっています。日本ではそうになっていなくて、なかなか郷土愛がわからない、わくような形にしていけない。

私の仕事は風土と伝統を活かして未来をつくるということで地域計画をしています。将来考えるうえで、過去から現在、そして未来へと考えていくことが重要です。でも最近はどうしても目の前のものだけに視点が行ってしまい、先に広がっていかない。旭市にも大原幽学など素晴らしい歴史上の人物がいる。新しいまちづくりには、必ず古き良きものがあり、それを柱にする。現代の新しい仕事もある。次の世代をつくるためには新しい仕事も必要です。

それからレジャーを楽しむいい環境があること。自然環境など様々な視点でバランスをとっていくのです。この地域は素晴らしいものをたくさんもっています。ひとつひとつじゃ太刀打ちできなくても、漁業、農業と全部一緒になれば全く違うものになると考えています。

●市長

大きな将来展望の会議になりますので、個人で意見を出すというのは、どんな話をしようか迷っていると思います。この旭が 5 年後、10 年後にどんなまちになってほしいのか、どんなまちにしたいのかということなら、委員の皆様が思っているでしょうから、そこからまず出発をして意見をだしてもらえればと思います。10 年後の旭の将来都市像、旭をどんなまちにするのか、小さなことでもよいので、こういうまちになったらいいなという委員の皆様が考えていることをお願いします。

○委員

市のPRの面で、外に行ったときに旭市の自慢や紹介をどうしたらいいのか。私は教職に就いていたので、今後可能であればという思いでお話します。

小学校4年生あたりで旭市の地域を学ぶ社会科副読本というのが今でもあるかと思いますが、その中には、旭市の簡単な歴史などの紹介があります。その他、旭市の自慢をいくつ知っているかなど、子ども向けのものだが、子どもが分かれば一般市民にもわかりやすいわけで、そういうものができるといいのかなと思いました。旭市には七宝焼きの有名な方とか、芋床を開発した方とか、落花生の発祥地だとか旭の自慢はいろいろあると思います。

この会議に来る前に、旭市のHPにどのようなことが載っているのかなと思って見ましたが、市の花や木の紹介とかでした。旭の自慢を誰でも言える、知っている、説明できる、まずは自分の郷土を知って旭の自慢が言えるということが大切ではないでしょうか。農業、漁業、商業、いろいろな分野で出てくると思います。

また、旭市の名前の由来などあまり言える人はいないと思います。こういうことは教育の部分で、子

どもに歴史を伝える必要があります。他にも旭市の歴史を学ぶ上で、農協の大元をつくった大原幽学を学ぶことなど、なんとなくではなく、きちんと子どもたちにわかりやすく教えられる、市民も学べる資料があるとよいと思います。

○委員

東京から来るバスの旅行などは、佐原や銚子への旅とかが中心で、旭に来る観光バスはなく、素通りしてしまいます。都会の子どもたちが旭を知れば、お母さんや親戚が旭を知る機会になると思います。例えば、こんなに大きな八万石の田園があれば、子どもたちに田植えのツアーを夏休みに企画するとか、海であれば地曳網など、都市部の子たちが来られる観光バスがあれば、そのお母さん、親戚が旭を知ることになります。旭一泊のツアーなどができるといいなと思います。旭はいいところがいっぱいあるのに、残念に思います。

○委員

先ほど資料5で説明いただいた転入・転出人口の推移ですが、旭市の転入・転出がほぼ一緒ということでした。この要因はなんだろうと考えたのですが、全体的なものは見えませんが、当社の中で見ますと、銚子市に住んでいた男性が当社の事務員と結婚しまして、旭市に転入してきました。ここで、人口が1人増加で、そこに子供が一人生まれまして2人増加しています。また、当社の若手社員の男性が最近結婚し、匝瑳市か旭市に引っ越し、子どもが生まれ、3人で暮らすようになりました。これを踏まえて当社の例を見ても、仕事（雇用）があつて、結婚する場面があることが、一番の人口増につながるのかなと感じます。

当社の社員も知り合う機会がなくて、独身が増えていると感じています。もっと知り合う機会が増えれば、将来家庭を持って人口増につながると思います。今の子どもたちは、家にこもる休日の過ごし方をするので、働きかけを市全体で行っていくことが重要と感じています。

当社は農家のお客様をお相手していますが、後継ぎがいない、結婚相手がいないと伺います。だからそういう場面、きっかけづくりをもっと市で、企業ぐるみでも企画してあげたらよいと思います。

仕事の面、増税も本当に大変で、安定した雇用をはかるというのが一番なのですが、商売だけではなく、農業、水産業、全体が反映して旭の中でいい循環をしていく。人が来て、雇用が安定し、結婚し、旭市でまた勤める。いい循環がどうやってもっていけるか、一番難しい問題ではありますが、一体となって活性化すれば、雇用、結婚し、子どもを産んで、とつながっていくのかなと思いました。

○委員

昨日、中学2年の娘に「将来何になりたい？旭からでていってしまうの？」と聞いたところ、彼女は何になりたいか決めていないけれど、旭にいたいという返事が返ってきて驚きました。

私世代、親の世代は、高校生くらいになると、田舎から早く出て東京に行って親元を離れて、なにか違うことをしたいなと思っていました。震災を経験したせいか、家族が近くにいることが安心し、兄弟が多いことがうれしいようです。

自分のわが子が将来旭市に残ってくれることが、大切だと思います。そのためには、旭市を住みやすい所にしていきたい。しかし、実際旭市に残るとして、仕事はどんなものがあるかなと考えると、彼女も悩んでいると思う。

○委員

先ほど大原幽学の話がありましたが、私は干潟に住んでおります。あそこは春になると桜がきれいで、椿や水仙もあり、花がとてもきれいです。そのことを知っている方はごく一部だと思います。私の母は、ボランティアで田植えのお手伝いをしており、市の交流事業の企画のようですが、このような企画をもっとアピールしたらいいと思います。また、東総運動場とか、広い場所がたくさんありますので、大きなことができると思います。

保育園の子どもがおりますが、周りは一人っ子、兄弟が少ない子が多く、親に理由を聞くと、仕事のことをおっしゃいます。若い母親は、お姑さんも若くまだ働いているので、手伝ってはもらえない。病気になったときなど、パートなどは交代の調整が難しく、保育園にも病気だと預けられなく困っています。このような状況では、子育て世代の仕事は難しくなっています。

○委員

雇用の話ですが、今後人口減少が続いていくと、大きな問題となるのが 2025 年問題と言われていますが、団塊の世代の 75 歳以上の方々の後期高齢者が非常に増えていきます。私たちの 30 代、40 代の世代がもっと元気にかかわって、もっと旭市を支えていこうという思いが大切じゃないかと思います。

旭市に住み始めたら、自分らしい暮らしを、旭市で続けられる環境、住まい、医療、介護、予防、生活支援が提供されるシステム、厚労省が行っている地域包括ケアシステムを構築できればいいかなと思います。まちづくりを含めて、若者も住み続けたいと思えるような、戦略が立てられたらと思います。

○委員

旭市の潜在能力、いいところを何年住んでいてもわからない人もたくさんいると思います。広報でおいしいものや名所等の特集したり、開業する道の駅で旭市紹介スペースをつくったり、学校でも自分の地域の良い所を見つける授業を行うなどということをやってみることも大切だと思います。

その他にも、

- ・シルバーセンターで働く人のインタビューを広報に載せる。
- ・インターネットで検索したらすぐ旭市の紹介が見やすいところにでてるようにする。
- ・ボランティア活動も紹介、やりたい人を発掘するための広報を載せる。
- ・極論ですが、子どもが 3 人いれば国内旅行、4 人で海外旅行を市がプレゼントするなど、子どもの多い家庭へのプレゼントによるきっかけづくり。
- ・一人娘で跡取りがいなくて困っている家もある。いい縁があれば結婚を考えている人へのきっかけができる場の提供。
- ・昔、ある団体の農家の集まりがあって、スキーやキャンプにいったりしていた。その時に、女性を招待して出会いの場をつくっていた。それで何組も結婚している。市でもそういう事業をやっているが、もっと若い人や独身の職員を中心に委員を任せればいいと思います。

●座長

旭全体のこれらの動きがネットワークにまとまって、今度はこっちで参加しようなどと自由になったらおもしろいですね。

○委員

秋田県の人口減少のビジョンを見たら、ひとつの村を除いてほぼ消滅するとでていた。その村は大潟村で、八郎潟の干拓によって造られた大規模農家が多いところで、経済力があり、地域の青年交流をやったら大潟村にとられてしまうそうです。このような村と交流を行って学んでいくことで、農業を主体とする旭市にも、たくさん人が移ってきてくれるといいなと感じました。

○委員

私は旭市について最近引っ越してきたのですが、旭に来てびっくりしたことがあります。国道 126 号沿いの賑わいです。なぜこんなに賑わっているのだろうと思い、金融機関をやっているのもそういった関係でみると、産業のバランスが非常にいいです。それに農業があり、漁業、畜産、工業があり商業がある。また、旭の事業所数は非常に多く、雇用という人口を維持するための大切な事業所が旭にはたくさんありますので、もっと旭の良さをうまくだせないかと思っています。

例えば、砂の彫刻展などアピールなんかも考えられますし、七夕、伝統、婚活、観光バスにしても婚活に体験農業、地曳網を絡めて行うなど、もっと旭市をPRできないかと思っています。

●座長

やはりひとつひとつではなく寄り合わせて、考えていかなければならないですね。

○委員

先ほどPR活動で、市のHPはあまり見なかったのですが、あまり紹介がないということで、砂の彫刻、七夕、旧跡などPRに関しては、商工会のHPも考えないといけないと思うのですが、旭のいいお店の紹介とか、もっと市や商工会で工夫してやればいいのかと感じています。

自社のHPでもPRしたら徳島からお客さんが来てくれたこともあり、PRすれば人が来るきっかけになりますので、まずHPから変えていってもいいかと思います。旭市の観光、イベント、婚活、旧跡、そして安定した病院を持っているということを盛り込んで、もっとPRするHPを改善するということもいいと思います。

●座長

総合的な、楽しく、魅力的な旭にするという大きな方針がほしいですね。

○委員

旭の良さは住んでみないとわからないところがあります。病院、買い物、こういったことは外にアピールするのは難しいと思います。私の家の前は、新興住宅として十数件家が建ちました。そういった人たちがどうして旭に家を買って住もうと思ったのかあらためて聞いてみようと思います。その人が旭を選んだ理由がわかり、魅力を外に広めていけるきっかけになるのではないかと思います。そういったことを、みなさんの身近な人に聞いてみて、みんなで報告し合えるといいかなと思います。

○委員

私は、広報として市のHPに携わってしまして話しにくいですが、皆さんからご意見のあった名所紹介やボランティアの活動紹介等も実は市のHPに載せています。ただし、市ではお知らせする事項が非常に多すぎて、情報がうもれてしまうというところがあります。もっと見ていただける、心に残るとい

うことを検討していきたいと思います。

あと少子高齢化問題は、実はかなり前からいろいろ市でも考えているのですが、ヒット商品がでていないということだと思います。だからといってあきらめるのではなく、いろいろ考え続けて、いいものを組み立てていかなければと思っています。今回の会議でヒット商品が出ることを願っています。

○委員

座長のお話にあった、文化・風土を活かしたまちづくりということで、私は砂の彫刻美術展のメンバーであるのですが、観光するにあたって、砂の彫刻も行き、農業体験も行き、また銚子への観光客も取り入れていくには、他地域との連携のなかでみていかないと、旭市単独では観光もなかなか来づらいのかなと思います。佐原、銚子、他地域との連携をもっと模索できるのではないかと思います。

広報は、各団体の広報のPRのHPがたくさんあると思いますが、バラバラになっていると思うので、そういった情報をまとめてよりわかりやすいリンクが必要なのではないのでしょうか。

●座長

旭のPR、周辺とのつながり。自分のところで1回終わったらだめですね。ライバルでも連携していけばぐるぐるまわっていきます。気持ちを大きく持って、周りも巻き込んでいく、ついでに来てねということでも構わないと思います。市のほうでも広報の充実をよろしくお願いします。

○委員

少し見方を変えてお話をさせていただきたいと思います。PRについては、日本全国の自治体が頭をひねって一生懸命行っています。ということはそれに勝つというのは非常に難しいのではないかと思います。世界遺産があるまちや、有名な高級食材の産地が多くあるなかで、PRしてマスコミにとりあげてもらおうとなるとよっぽど秀でていないと難しく、他市町村との競争のように感じてしまいました。こういったことは行政よりも、民間のアイデアがうまくいくのだろーと思います。

では、本当のまちづくりをとということになると、10年後、15年後の旭市を考えると、流行り廃りのあるPRよりも、もっと地に足のついた、子育てと医療の充実かなと思います。

私には1歳の子どもがいて、一番子育てがリアルであり、理想はありますが、目の前の子どもをどう守るか、現実的にお金のことも、まちの住みやすさのことも、将来のことも考えてしまいます。この子が生きていくこのまちがどうなるのか、誰以上に子を持つ家庭の親が思うことです。子供が住みやすいということを考えるのが大事なかなと思います。

先ほど「子供が多い家庭に旅行をプレゼント」などの話も非現実的ではなくて、じゃあ産みましょうということにはならなくても、いろいろなきっかけにつながるのではないかなと思いました。

○委員

農協青年部をやっていますが、自分の周りにも独身者が多くて、婚活を行っても女性が集まらないということがあり、そこは強くPRしてもらって、結婚にいたってもらいたいなと思います。自分は千葉の女性と結婚しましたが、旭市は仕事場があまりなく、若い人がやりたい仕事がないと聞きました。若い人の意見を聞いて、仕事場をふやしてほしいなと思いました。

○委員

市職員ではありますが、私個人の意見として、子供がいて、今年、高校を卒業したのですが、大学を出た後、旭市に戻ってきてくれるかわかりません。もし、戻ってきてくれるのであれば、雇用が心配です。子供の出生率が低いのは、将来が不安であればなかなか上がらないのかなと思います。

中央病院は 2000 人の社員ということで、ひとつの拠点になりうると思いますが、昨年度、院内処方から院外処方になるという方向性に決まりましたが、このことにより周辺に薬局が増え、社員寮があるようなところもあります。院内処方のままよりも雇用が生まれたのかなと思います。病院の 2,000 人の職員というだけでなく、周りも含めて取り込んでいければと思いました。

●座長

青年会議所の活動は活発なのでしょう。どこでも青年会議所の活動が下火になっています。これから一番担う年代ですから、元気になっていかなければなりません。

それから、景観的に日本は悪いといわれています。明治までは、世界で最も美しいまちだったし、田園もきれいだったし、外国人でもとても楽しみにしていたし、言葉が分からなくてもお茶をだしたり、本当によかったという。旭市の泉源沼も美しかった、大きなアシのような植物あるなど、海のほうも美しかった。また、あるところに防火用水に黄色いきれいな花が咲いて感動しました。こういう小さなものから大きなものまで全体を見ていく必要がありますので、そのへんをひとつずつ少し改良しただけですごく素晴らしくなると思います。

国交省でもいろいろなことをやっているのですが、どうも表面的で、道路も河川も縦割りで一緒にならない。旭は一緒にやれば、日本一になれると思います。

○委員

飯岡で釣り船をやっております。うちの前を国道が整備され、銚子のお客様が東京からいらっしゃる際に、うちの前を素通りしてしまうのです。どうしても銚子にはかなわなく、朝早くから夜遅くまでやっても、女性専用のトイレをつくったり、温泉を始めてみたりしてもだめでした。どこかで発想の転換というか、切り替えないと、ずっと同じことの繰り返しではお客さんが呼べない。そこで、震災前に違った釣り方で真鯛の釣りを始めたのです。瞬く間に広がって、飯岡全体でやるようになりました。

旭は魅力ある最高のまちだと思います。子供が好きなので、小学校 5 年生、6 年生、ボランティアで釣りの遊覧船をやらせてもらったことがあり、子どもたちが海から旭市を眺めてすごく反響もらいました。今、子供たちを大切にしたら、よそにでも必ず戻ってきますから。長い目で見たほうが良いと思います。今年も、飯岡小学校ですが、この 6 月に 5 年生対象にやる予定です。

●座長

飯岡くらいの漁港だったらすごく良くなると思います。前から思っていたのですが、飯岡にフィッシャーマンズワーフというのをつくって、それで畜産物から、農産物からいろいろなものがあって、魚を置いて楽しく素晴らしい店が並び、そこでコーヒーを飲めたりするといいです。そういうのが旭市にはなく、あったら人は集まると感じています。

道の駅についても、旭市の特徴を生かしたちょっとしたクリニックがあったっていいと思います。あるところでは、アウトレットの一部に病院があり、安心して遊びにこられる。そういう相互的な有機的な関係にしていくことが大切です。今回のテーマは、人口減少という難しい問題ですが、そういうことが人口増につながっていくということになると思います。

例えば、旭市に別荘地が出来るような景観的なものがほしいと感じています。今は、景色がいいところだけでも電柱を地中化するなど、わずかの気遣いだけでずいぶん違うものです。視覚、目で見るとことは、人間活動の 8 割を占めますから、それがよくないと、人は魅力や愛着を持たないし、毎日散歩しても楽しいと思わないと思いますし、これもひとつテーマだと思います。

○委員

先ほど釣り船のお話伺いましたが、中学生と地元を訪ね歩いて、久しぶりに地曳網と浜までゴミ拾いをして楽しませたことがありました。このように、いろいろな方がいろいろな発想でポツっとはやるのですが、継続性がなくて、それはひとつ課題です。

いろいろ同僚に言ったりして、そのあといろいろな学校でやるようになって。飯岡から釣り船を体験させまして、3年生の卒業記念で、「故郷を海から見よう」という発想でした。釣りをやって、最後に帰ってくるときに、浜から海岸線側から砂浜沿いを通ってもらって自分の家が見えるかというのをやって、子供達は大はしゃぎでした。旭の魅力、財産の海を子供らにちゃんと見せて、歓喜していました。そういうのを体験させて、また旭に住もうかなという発想になってくれればいい。海があつてそういう経験ができる、農業にだっていろいろな食材・体験ができると思います。

●座長

いろいろなご意見ありがとうございます。次回も早々にやらなければなりません。次回開催の日程をお願いします。

●事務局

- ・旭市総合戦略の構成案の説明
- ・重点プロジェクトの決定スケジュール説明
- ・次回懇談会 6 月 30 日（火）14：00～

以上